

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173101245		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム ほたるの里		
所在地	埼玉県熊谷市八木田497-1		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 28 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 3 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一昨年から続いている新型コロナウイルスによる影響は、現在も多大にあります。面会の禁止や制限があり、外出もままならない状況です。ご入居者様、ご家族様、職員がともにストレスに何とか耐え忍んでいます。そんな中でもできる限りの季節感や行事を大切にしたり、食事を工夫して楽しく過ごしてもらえるように職員間で話し合い、努力しております。家庭的な温かい雰囲気や美味しい食事を提供できるよう心掛けています。入居者様の一人ひとりの思いや、身体状況・精神状態等を把握して日々の安全・安心なケアに繋げられるようにしています。また、職員の認知症や介護に関する研修等もオンライン上で行える物にチャレンジしているところです。(埼玉県認知症グループホーム・小規模多機能協議会の研修や、認知症介護基礎研修など)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念で掲げている「その人らしさ」を大切に職員は利用者寄り添い、今までできていたこと、できることを、そのまま事業所でも継続し、役割を持つ支援に努めている。食事は、職員が食材の買い物、メニュー作りから調理までをおこなっているため、利用者は日頃から料理に参加できる環境になっている。コロナ禍で制約を強いられる中、楽しく食事をすることに力を入れ、料理の味見を始め、手打ちそば、手打ちうどんを作ったり、リクエストに応え、ハンバーグ、シューマイ、カレー等を一緒に作り喜ばれている。外出行事はできないが、近隣の散歩や外気浴、ドライブで気分転換を図っている。レクリエーションでは、職員の意見を取り入れ、たこ焼きパーティーや焼き鳥パーティーをしたり、歌集を作り歌を唄う等、利用者が安心して過ごせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示してあります。入社時や職員会議時、ミーティングの時にも時折会話の中に取り入れています。	法人理念を玄関に掲示し、申し送り時や会議等で職員と共有を図っている。理念である「その人らしさ」を大切にし、利用者のできる事、今までしていた事が継続できるよう、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には入会しているが、昨今の状況下で行事が中止になっており参加できていない。ご近所の方に散歩中に挨拶を交わす程度。自治会長さんには連絡を入れたりしている。	コロナ禍前は町内の子ども神輿や新年会等に参加していたが、現在は行事が中止になり、ボランティアの訪問も断る状況で、地域との交流はない。近隣の散歩中に挨拶を交わす程度に留まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、中学生の職場体験や認知症サポーター養成講座を開催しているが、本年も出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、開催できておらず書面にて状況をお知らせしている状態。	コロナ禍前は家族会と同時に地域包括支援センター、民生委員、町会長等の参加の下、運営推進会議を開催していたが、現在は書面開催としている。入居数、運営状況、職員紹介、今後の方針等を記載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿いきがい課、大里広域介護保険課、地域包括支援センターや生活福祉課等と連絡を取り合うようにしています。生活保護の方が2名入居されているのでケースワーカーとの連絡を密に行うようにしている。	行政と電話やメールで連絡をとっている。今はコロナ関係のお知らせがあり、PCR検査優先検査についてや、施設のコロナ発生状況等の連絡がある。研修はオンライン研修で参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止している事を職員と常に話している。不適切なケアが身体拘束に繋がる事案になることも共有している。入社時にも研修をしている。	2ヶ月に1回、身体拘束・虐待廃止委員会を開催し、ホーム内で実際に起こり得る支援について研修をおこなっている。利用者の安全の為にいつ使ってしまう言葉の改善、車いすとテーブルの距離を保つ等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護研究・研修仙台センターの虐待防止マニュアルを使用して知識を深めている。また、入居者様のご家族や見学、入居申し込み時にコミュニケーションをはかり防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者様がいるので、情報や知識を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前のインテーク時に入居者及びご家族様の意向を十分に聞くようにしている。見学の際になるべく細かい内容なども説明するように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にはさりげなく意見や要望を話していただけるように、信頼関係の構築に努めている。その要望が管理者で判断し難い時は、開設者に相談し再度話し合いの機会を作っている。	家族会や運営推進会議、面会時に家族からの意見を聞いているが、今は開催できないので、意見を聞くことができていない。毎月の請求書の郵送時に利用者の様子の写真を一緒に送り、家族から喜ばれている。	運営推進会議や家族会、面会ができない中でも、利用者・家族からの意見を聞く仕組みを作ることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前年度の目標計画に上げたように、個人面談を行い職員の意見を反映できるように努めている。今までのように普段のユニット会議でも意見が言えるような雰囲気作りも継続している。代表者を交えた管理者会議(リモート)も毎月行っている。	年1回、個人面談を行う他、日頃から職員の意見を聞く機会を設け支援に反映させている。職員の提案で、音楽が好きな利用者が多いので、歌集を作成したいという提案を取り入れ、利用者から喜ばれた。	職員からの意見や提案を更に取り入れ、利用者のより良い支援に繋がることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みはできる限り取れるようにシフトを調整している。長期休暇も取れるように配慮することもあります。長く働き続けられるような職場の雰囲気作りを目指している。研修への参加や、資格取得を応援できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内のOJTは勿論、認知症基礎研修やグループホーム協議会主催のオンライン研修に参加して機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨今の状況下でなかなか交流が思うようにできていない。(例年なら北部情報交換会や西熊谷病院主催の研修等に参加して交流をしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉だけではなく、表情や仕草等をよく観察し傾聴するようにしている。また、無言の中に隠された本当の想いを探るようにし		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前の電話相談や見学の際に、ご家族様の困り事や要望を整理してご案内できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の電話相談や見学の際に、ご家族様の困り事や要望を整理してご案内できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主役は入居者様である事を念頭におき、スタッフが中心にならないように側面から支援するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	専門職だから出来る事は当然行うが、ご家族様にしかできない事はよく話し合い、一緒に入居者様を支えることができるようにケアプランを考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来であれば面会や外出も大歓迎なのだが、現在は無理な状況が続いてしまっているため支援できていない。	本人が家族や友人宛てに書いた手紙を請求書に同封したり、手紙を書くときのサポートを行い、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。事業所内で気の合う仲間同士の関係性への配慮もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが暮らし方、価値観が違うため色々な想定ができるように柔軟に対応している。孤立しないように職員が仲介するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、ご家族様との交流を大事にするようにしている。お陰様で、退去後のご家族様よりお手紙や、来訪にて時折菓子折りをいただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での何気ない会話から、ご本人様の意向を把握できるようにしている。また、職員全体で情報を共有できるよう申し送りノートを活用している。	「その人らしい生活」ができるように、日々の会話や、表情、仕草の中から思いや意向の把握に努めている。定期的なトイレ誘導では、今は行きたくないことを表情で表現する利用者の意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の収集のみで終わりにせず、今までの暮らし方や生活歴にあったケアに努めている。入居者様がどのような考え方をしているかを探る傾向にあるかを掘り下げられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をして終わりにはせず、その記録からどのような心身上の変化があったのか等の現状把握にも努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングやケアカンファレンス時に、自由な意見を出してもらっている。色々な職種が、チームでケアをしていることを常に認識できるよう日頃から伝えている。	本人の意向、生活歴や今後の暮らし方等を確認した上で、介護計画を作成している。その後は情報と実際が違っていたり身体状況の低下時の他、6ヶ月毎に見直しを行い現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を担当者を決めずに記載する方式をとっている。(入居者一人ひとりの個人の生活記録)職員が気が付いた事を記録し、申し送りをを行い情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のみではなく、家族や親戚の介護や医療機関の制度についても質問には解る範囲で相談に乗るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居以前の地域資源を途切れないように、家族や近所の方との交流を継続できるようにしたいが、現状は厳しくできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の嘱託医だけではなく、以前のかかりつけ医の継続も可能である。実際にそのような利用者様もいる。	利用者は月2回、嘱託医の訪問診療か以前からの主治医の診察を受けている。週1回看護師が健康管理を行い、病状悪化の早期発見に努めている。緊急時は救急車対応とし、迅速に適切な医療の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事でも嘱託の看護師、ホームの看護師に相談をするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	MSW、看護師と密に連絡をして調整している。現在のコロナ事情で、面会はもちろん事前調査も伺える状況ではないのが実情。電話や書面にてやり取りをして情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を契約前に行うようにしている。重度化した場合の本人、家族の意向を聞くようにしている。また、定期的に意向の変更の有無を確認するようにしている。	入居時に、医療行為はできないことや、入院期間の限度について説明をしている。事業所では看取りはしていないが、利用者の状態や症状により、その都度家族の意向を聞きながら、利用者が安心して過ごせるような支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半数以上の職員が救命救急法とAEDの使用方法に関する研修を受けている。管理者、看護師がオンコール体制でいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害防止マニュアルを作成している。年に2回の避難訓練(防災訓練)を行っている。また、避難経路の確認もしている。	年2回、昼夜想定で避難訓練をしている。災害時には近隣職員が駆けつける体制ができている。日頃から避難方法の意識づけに努め、職員全員が身に付けている。地震、水害は事業所内で避難を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が自らの声の掛け方について振り返る機会を設けるようにしている。職員の視点だけにならないように、入居者様の視点でプライバシーを考えられるようにしている。	個人情報や重要書類等は鍵付き書庫に保管する他、パソコンはセキュリティー管理をしている。日頃から個人が特定されない配慮や、トイレの際の声かけ、排泄時や入浴時のプライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いや、希望を伝える事が困難な入居者様に対しては表情や仕草、言語以外のコミュニケーションをはかり自己決定が行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務優先にならないように、まずは入居者様を第一に考えるようにして欲しいと常に伝えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容に関しては、職員の声掛けや一部介助にて行っている。月に一回10年以上同じ美容師がカットに来てくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にリクエストをしてもらったり、献立と一緒に考えたり、食事作りを手伝ってもらうこともある。季節の野菜や行事食、なるべく手作りの家庭的な料理を提供できるよう職員が頑張っている。	週2回、職員が食材の買い物に行き、メニューから調理まで、手作りで食事を提供している。畑で収穫した野菜を取り入れたり、利用者と一緒に作るギョーザやハンバーグ、冷汁は利用者から喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に関しては、個々に生活記録に記載している。糖尿病や高血圧、心臓病や腎臓病の方に関しては医師と相談し調節している。嚥下機能の低下や咀嚼にあわせてミキサー食等の対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方に関しては声掛けを行いしてもらっている。介助が必要な方は職員が行い清潔の保持に努めている。口腔ケアの相談は、歯科医にその都度相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り便座に座り排泄するようにしている。職員はこまめにトイレ誘導を行い、失禁を少なくする努力をしている。何かしらのサインを見逃さないよう目配りしている。	排泄チェック表を基に、日中はトイレ誘導をしている。職員二人体制で支援が必要な人もトイレでの排泄支援をしたり、入院から退院後も元に戻すよう、日頃から自立にむけた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳飲料や繊維質の多い食品等を食事に取り入れ提供している。また薬に頼らないようにするために、運動や体操を適宜するように伝えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご高齢の方が多く、体調には十分配慮するようにしている。週に2回の頻度が多い。入浴剤などを使用しリラックス効果や保温効果を高めて入浴してもらるようにしている。	週2回、午前中に入浴時間を設けている。体調に配慮しながら支援をしている。入浴嫌いな人に対しては、どうしたら入浴ができるのか検討し、現在は嫌がる人はなく、入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	比較的皆様落ち着かれていて良眠されている方が多い。昼食後に午睡をする方もいる。ベッドではなく、布団を希望される場合は対応可能。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員が確認できるように生活記録のファイルに綴ってある。効果や副作用等を説明したり、変更があった際は必ず申し送りを行い周知を徹底するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの暮らしが継続できるように、適度な家事手伝いをしてもらえるよう声を掛けている。近所への散歩や、カラオケ、ぬりえ、貼り絵、折り紙、新聞の購読をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればご本人様と一緒にスーパーに買い物に行ったりしているが、現在は出来ない。近所への散歩、テラスや敷地内などで外気浴してもらい気分転換をしております。	近隣の散歩や外気浴、ドライブ等、コロナ禍でもできる事をしている。毎年恒例の初詣やヒマワリ畑に花を見に行く等、密にならないような場所を考えながら外出支援を行い、利用者から喜ばれている。家族との外出は控えてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金を所持されている方も3/1程度いらっしゃるが、現在は支払い等の発生する買い物に行けない状況(コロナ禍)なので支援する機会は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込みされている方も数名いらっしゃる。希望があれば、家族との電話連絡や手紙のやり取りをするように支援しています。面会がままならない状況なので、以前より電話やお手紙でのやり取りが増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な空調や明るさの調整をしている。現在は換気もこまめに行ったりしている。ホールの壁や自室の入口付近に季節感を感じられるように行事にあった貼り絵や折り紙等で作成した飾りを貼っている。	壁面には利用者と一緒に作成した今年の干支であるトラの作品が飾られ、季節感を表している。今は次のお雛様の作品を手掛けている。利用者は作品の出来上がりをみて満足の笑顔を見せている。事業所内の換気、消毒を定期的におこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥に椅子やソファを設置していることにより、思い思いに過ごせる空間作りができていると思う。テレビも二箇所設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物等を家族にお持ち頂き、居室内に置けるようにしている。鏡台を置かれている方もいる。また、位牌にお水やお供えをされる方もいる。花瓶に生花を入れ飾っている方もいる。	居室は寒くないように利用者がいない時に換気をしている。ベッド、チェスト等が備え付けだが、利用者の生活スタイルに合わせ布団の居室もある。表札に個人の作品を飾り、迷わないような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表記を2種類にしてある。また、可動式のバーが取り付けられている。廊下や共用スペースには邪魔な物がないように整理整頓を心掛けている。居室内のレイアウト等もご本人様と一緒に考えて広く使えるように工夫している。		